

第七十八回大分県民スポーツ大会を顧みて

大分県民スポーツ大会実行委員会 委員長 吉野賢一郎

「夢・挑戦」とびきりの笑顔を 別杵から」のスローガンのもと、第七十八回大分県民スポーツ大会を、九月十三日から十五日までの三日間を主日程とし、別杵ブロックを中心に、県内の七市三町で開催いたしました。

大会期間中は天候に恵まれ、三十二の郡市対抗競技と八の公開競技を合わせた四十競技に、十七郡市十六チーム（国東市と東国東郡は合同）から七千六百九十五人の役員・選手が参加し、連日熱戦が繰り広げられました。

九月十三日にべつぷアリーナで開催した総合開会式には、県議会議長をはじめ、別府市長、国東市長、姫島村長など、多くの御来賓の御臨席のもと、各郡市の役員・選手、大会役員、競技団体関係者、式典関係者など約八百人が参加しました。

開会式では、日本ボイスカウト大分県連盟の皆さんを先頭に、各郡市総勢約五百六十名の選手団が、ふるさと自慢の特産品などを掲げながら堂々の入場行進を行いました。開会宣言後の国歌、大分県民体育の歌、別府市歌の斉唱は、混声合唱団「歌輪」による歌声により、開会式に華が添えられました。

大会会長である佐藤樹一郎大分県知事の挨拶の後、五十回出場者等とスローガン作成者の表彰を行い、それぞれ表彰状や記念品が授与されました。また、選手宣誓では、ブロック会場の別府市、杵築市、速見郡、国東市・東国東郡の代表選手が力強い宣誓を行いました。

式典後に行われたアトラクションでは、APU よつしや虎威の皆さんによる躍動感あるパフォーマンスに会場全体が魅了され、大きな拍手が送られました。

大会運営では、競技団体をはじめ、関係者の献身的な御尽力により、全ての競技を滞りなく終了することができました。今大会は、柔道競技で豊後高田市、サッカー競技で宇佐市、武術太極拳競技で別府市が、それぞれ初優勝し、水泳競技、ライフル射撃競技、ボウリング競技で大会新記録が生まれるなど、大分県民スポーツ大会の歴史に新たな一ページが刻まれました。

総合成績は、大分市が四十四大会連続七十回目の総合優勝を成し遂げ、第二位には別府市、第三位には中津市がそれぞれ輝きました。

また、部別成績は、A部第一位大分市、第二位別府市、第三位中津市、B部は第一位宇佐市、第二位臼杵市、第三位杵築市、C部は第一位豊後高田市、第二位速見郡、第三位豊後大野市でした。

大会である以上、勝ち負けはありますが、参加されたすべての選手が精一杯練習に取り組まれた成果が遺憾なく発揮され、各会場において躍動する姿は、「スポーツ大分」を象徴するものであり、大会スローガンのとおり、県民の皆さんにとびきりの笑顔を届けることができたものと確信しております。

結びに、別杵ブロックをはじめ、県下の開催地市町、大会運営に御尽力いただいた競技団体等、関係各位に深甚なる敬意と謝意を表しますとともに、今後も本大会が一層充実・発展しますよう、皆様方の御支援と御協力をお願い申し上げます、第七十八回大分県民スポーツ大会の回顧とします。